

第 39 回あいち学童保育研究集会レポート

【クラブ】（ なかよしクラブ ） 【名前】（ 吉川美里 ）【立場】（ 指導員 ）

① 午後に参加した分科会の名称をお書きください。

第（ 8 ）分科会 名称（いつものがくどうで、いつものように絵本を、お話を。）

②全体会講演や分科会に参加して、心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

全体会講演の資料を見た時、初めてレジュメが全部手書きで書かれているのを見て衝撃を受けました。それもかなりの量。それだけでも手作りのあたたかさや一生懸命な思いがよく伝わってきたように感じました。

冒頭で 学校や家ではとても良い子、学童に居る時が本当の姿という子がよくいるというお話がありました。先日 自分のクラブの子と一緒にたわいもない話をしていた時、子どもに「オレ学校では大人しくしてるから全然違うけど、本当のオレは学童のオレなんだよ。こっちがほんとの自分！…」とさりげなく言われたことがありました。それを担任の先生に言ったということも後で知りました。（後日担任の先生から聞いた！）複雑な思いはあるものの、本当の自分を出せる居場所としてクラブがあって良かったと思いました。（現場での言動には色々悩み葛藤しますが。）そしてそれがサラッとと言える環境はとても大切だと思いました。

全体会では “異年齢の仲間がいて自分が出せる育ち合う場、それが学童保育所、今の子どもたちにとっては貴重な居場所となっている” という言葉が繰り返されていました。先生が信念をもって子どもたちの教育に携わってきた日々、決して飾らず、心の声に耳を傾けている姿が浮かんできました。子どもが発信することや上辺の言葉をそのまま受けるのではなく、訳や思いがあると考え、子どもを理解することが大切。“心の声を聴き取る” これが一番大切であって難しく、努力を要することであると思います。言葉にならない言動から子どもの心を捉える、SOS に気づいて話をよく聴くこと。日常、意識はあるものの、自分としてはもっと心にゆとりをもって余裕で共感できるくらいが理想です。出てきたたくさんの大切なキーワード、全てが今日の前にいる子どもたちの現場に直結し、立ち止まって振り返ることが出来ました。

分科会では、絵本を実際に読んでいただくことで、改めて“読んでもらう側”（わくわくしながら、どうなるんだろうと考えたりしながら見る・聞く）の気持ちも考えられたり、指導員も“一緒に楽しく！”を大切にしていこうと思いました。AI や利便性から、人と人との触れ合いや関わりが減ってしまっていて残念に思っていたこの頃。全体会の話の中にもありましたが、実際に触れて感じ取って五感を通して育まれるものは、成長過程にある子どもにとって重要なことだと考えています。こんな時だからこそ、絵本は貴重な存在です。これからも実践していこうと思っています。